

## 保健物理・環境科学部会セッション

## 東京電力福島原子力発電所事故に関連した国際機関の活動と今後の課題

Activities in international organizations concerning the Fukushima Daiichi accident and future issues

**(1) 国連科学委員会 (UNSCEAR) の活動**

## (1) The activities of UNSCEAR

\*保田 浩志<sup>1,2</sup><sup>1</sup>広島大学, <sup>2</sup>国連科学委員会事務局

国連科学委員会 (UNSCEAR) の歴史・役割と、UNSCEAR が 2013 年国連総会報告書附属書として刊行した福島第一原発事故影響評価に関する報告書の内容等について概説する。

**キーワード：国連科学委員会, UNSCEAR, 福島原発事故, 影響, 線量, アセスメント**

**1. UNSCEAR とは**

原子放射線の影響に関する国連科学委員会 (United Nations Scientific Committee on the Effects of Atomic Radiation、通称「UNSCEAR (アンスケア)」) は、1955 年の国連総会で設置された国連の委員会で、27 の加盟国 (2017 年 1 月現在) が任命した科学分野の専門家で構成される。その事務局はオーストリア国ウィーン市にある。

同委員会の役割は、電離放射線による被ばくの線量と影響について科学的評価を行い、その結果を国連総会に報告することである。そのために、UNSCEAR では、事務局を通して国連加盟国、国際組織および非政府組織等から関連するデータや学術論文等を収集しつつ、重要な課題の検討やそれについての科学的評価を実施し、年次会合での審議・承認を経て、信頼に足る情報を報告書にとりまとめている。

**2. 東電福島第一原発事故に関する報告書****2-1. 報告書作成の経緯**

2011 年 3 月に東京電力福島第一原子力発電所において過酷事故 (以下「福島原発事故」) が発生したのを受け、UNSCEAR は、その二か月後 (2011 年 5 月) に開いた年次会合において、当該事故の人体や環境への影響を科学的に解析・評価して 2013 年の報告書にまとめる計画を定めた。そして、2 年半以上にわたる集中的な取り組みを経て、2014 年 4 月に「2011 年東日本大震災後の原子力事故による放射線被ばくのレベルと影響」と題する報告書 (以下「UNSCEAR 福島報告書」) [1] を刊行した。

同報告書の作成には、18 の国連加盟国からの 80 名以上の専門家に加え、国連専門機関 (IAEA、WMO、FAO、WHO および CTBTO) の専門家が無償で協力した。専門家は主要なカテゴリー (情報収集・品質評価、環境放出・拡散・沈着、公衆・環境の被ばく、作業員の被ばくおよび健康影響) に基づいて 5 つのグループに分かれて検討・執筆作業を行った。筆者は、2011 年 12 月から約 3 年間 UNSCEAR 事務局においてプロジェクトマネージャーとして勤務し、福島報告書の作成に関わる諸々の調整作業に携わった。

---

\*Hiroshi Yasuda<sup>1,2</sup>

<sup>1</sup>Hiroshima Univ., <sup>2</sup>UNSCEAR Secretariat.

## 2-2. UNSCEAR 福島報告書の概要

UNSCEAR 福島報告書では、福島県民、日本の他の都道府県の住民、原発サイトやその周辺で緊急作業に従事した作業員およびその他の人々についての線量が解析評価され、それに基づいて将来予想される健康影響に関する推察が述べられている。また、陸域および水域の生態系への放射線被ばくの影響についても論じられている。その主要な見解を以下にまとめる。

- ・ 事故による被ばくを受けた人々について、発がん率は現在の水準を保持する
- ・ 推定された線量が最も高い小児の甲状腺がんリスクは理論上増加する可能性がある
- ・ 先天性異常／遺伝的影響は観られない
- ・ 作業員の発がん率に識別可能な上昇は観られない
- ・ 野生生物には一過性の影響が観られる

## 2-3. フォローアップ

UNSCEAR では、2013 年報告書を刊行した後も、福島やその周辺における状況について、新たに公表された研究成果を集約・評価して、年刊の白書（正式な国連総会報告書ではない刊行物）にまとめる作業を継続している。2017 年 1 月現在、2015 年白書[2]および 2016 年白書[3]がウェブ公開されている。

また、UNSCEAR 福島報告書および後続の白書の内容を日本の市民、特に福島県在住の人たちに深く理解してもらうことを狙いとして、UNSCEAR の専門家が継続して日本を訪れ、対話型の説明会を開催してきた。これまでに、UNSCEAR の主催により、福島市、郡山市（2014 年度）、いわき市、南相馬市（2015 年度）、会津若松市（2016 年度）および東京数か所で説明会が実施された。

これらのフォローアップ活動は今後も続けられる予定で、筆者もその円滑な実施のために引き続き力を尽くしたいと考えている。

## 参考文献

- [1] UNSCEAR: Levels and effects of radiation exposure due to the nuclear accident after the 2011 great east-Japan earthquake and tsunami. UNSCEAR 2013 Report to the General Assembly, with scientific annexes, Volume I: Report to the General Assembly, Scientific Annex A, 2014; United Nations, New York.
- [2] UNSCEAR: Fukushima 2015 White Paper: Developments since the 2013 UNSCEAR Report on the levels and effects of radiation exposure due to the nuclear accident following the great east-Japan earthquake and tsunami, 2015; United Nations, New York.
- [3] UNSCEAR: Fukushima 2016 White Paper: Developments since the 2013 UNSCEAR Report on the levels and effects of radiation exposure due to the nuclear accident following the great east-Japan earthquake and tsunami, 2016; United Nations, New York.